池内遺跡その２の弥生時代調査成果

現在、（財）大阪府文化財センターでは、阪神高速大和川線および府道住吉八尾線の建設に先立って、松原市池内遺跡の発掘調査を行っている。遺跡西側に当る池内遺跡その２の調査範囲では、これまで各時代にわたっての生活の跡が発見された。

地形的には南の丘陵から下り、東を瓜破台地、西を上町台地に挟まれた沖積地に位置している。比較的沖積作用が早くに終了しており、弥生時代前期中頃の洪水層（第５層）を最後として安定した地形となっている。

注目すべき成果としては、弥生時代前期と平安時代中頃の遺構群の発見がある。平安時代中頃では大規模な屋敷跡や耕作の跡が見つかった。弥生時代前期では中頃の水田と集落跡がある。水田は沖積作用によって形成された南東－北西方向に軸をもつ浅い窪地内につくられたいわゆる小区画水田である、集落跡は水田が洪水によって埋没したのちのものであり、東では環濠の可能性がある２条の大溝を伴っている。洪水後の地形変化により、この地に移動したと推定している。明確に住居跡と考えられる遺構は未検出であるが、多くの土坑を中心に柱穴・溝などが認められる。集落の西端については現在調査中であるが３－２区中程で途切れるようである。これらの遺構および洪水砂から出土した遺物は未検討のものが多いが、いずれも前期中段階を主とするようであり、初期弥生集落の様相を示すものとして興味深い。

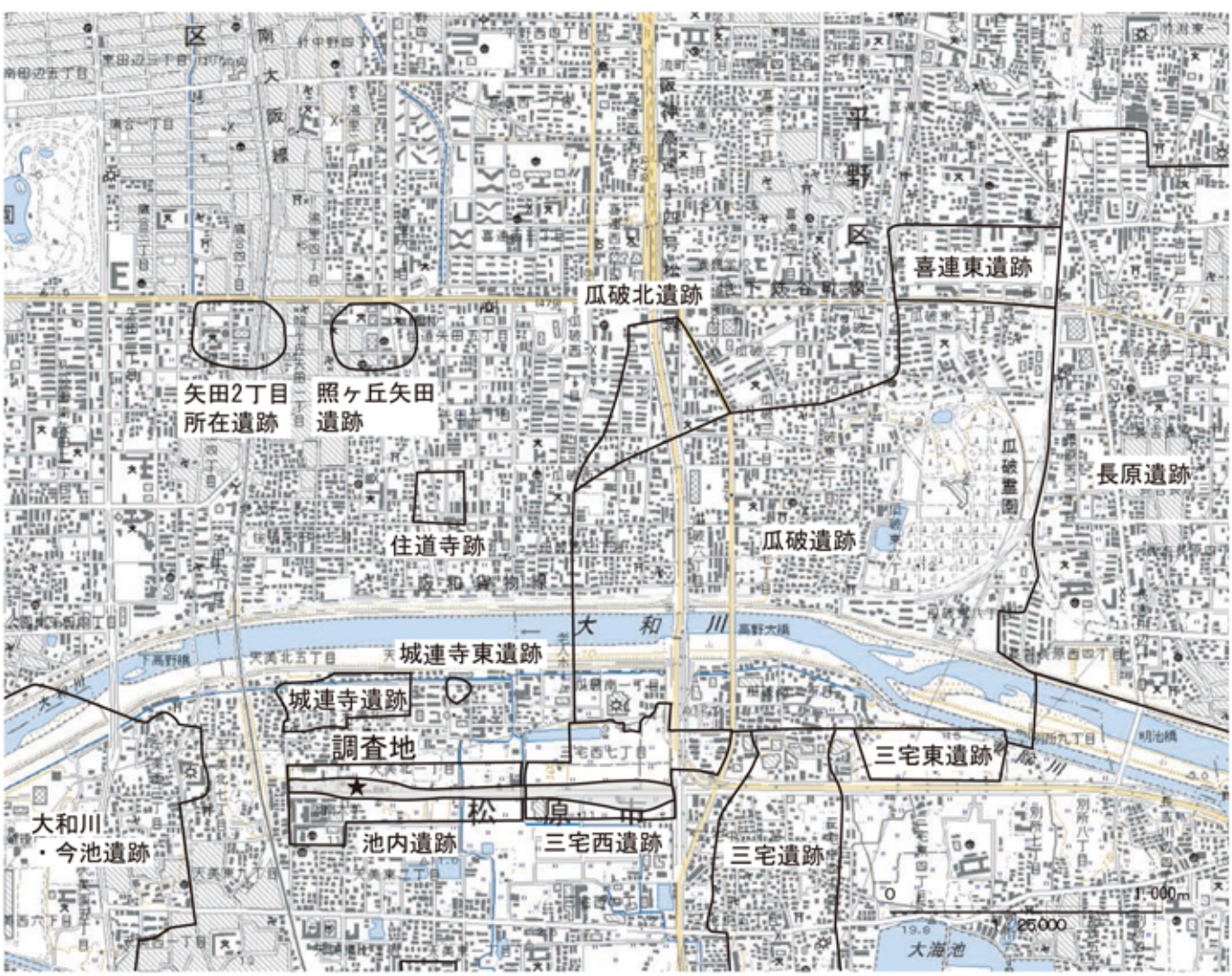
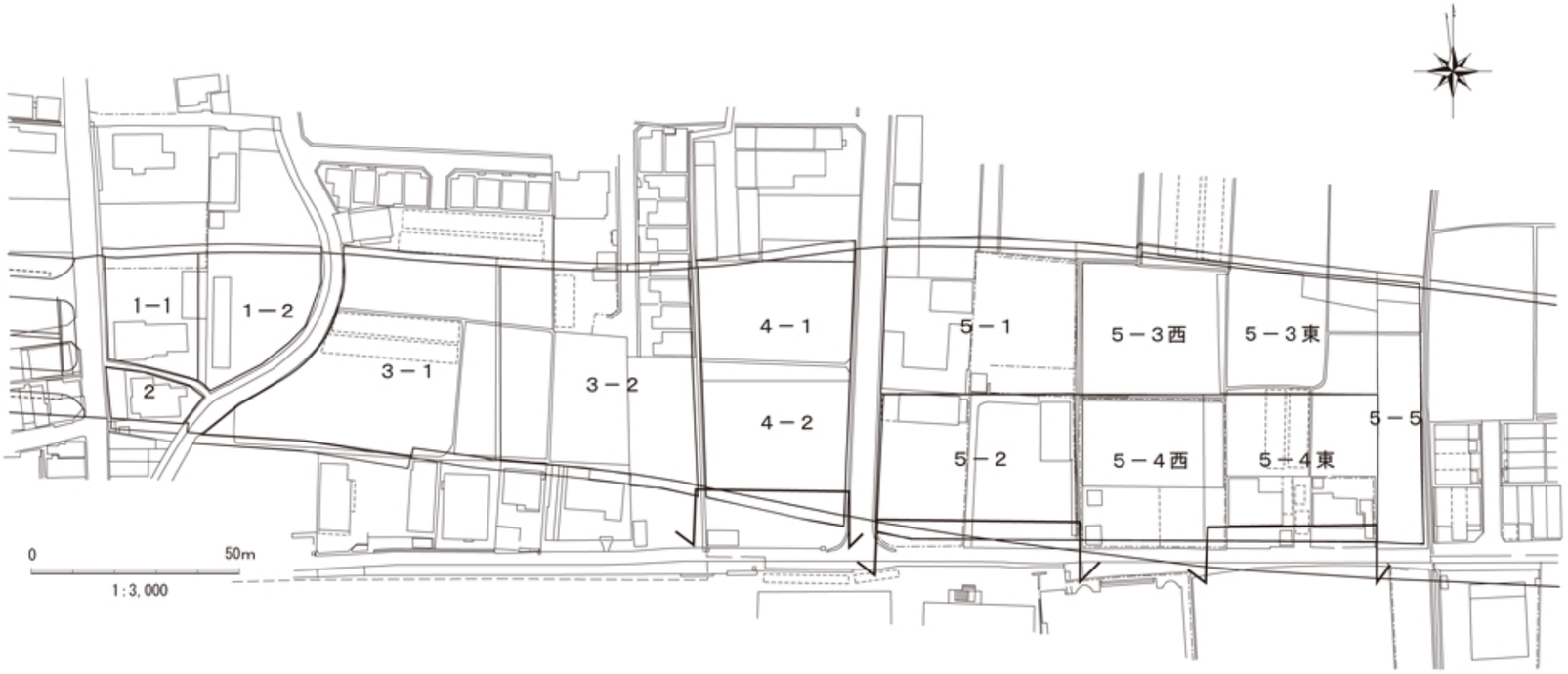
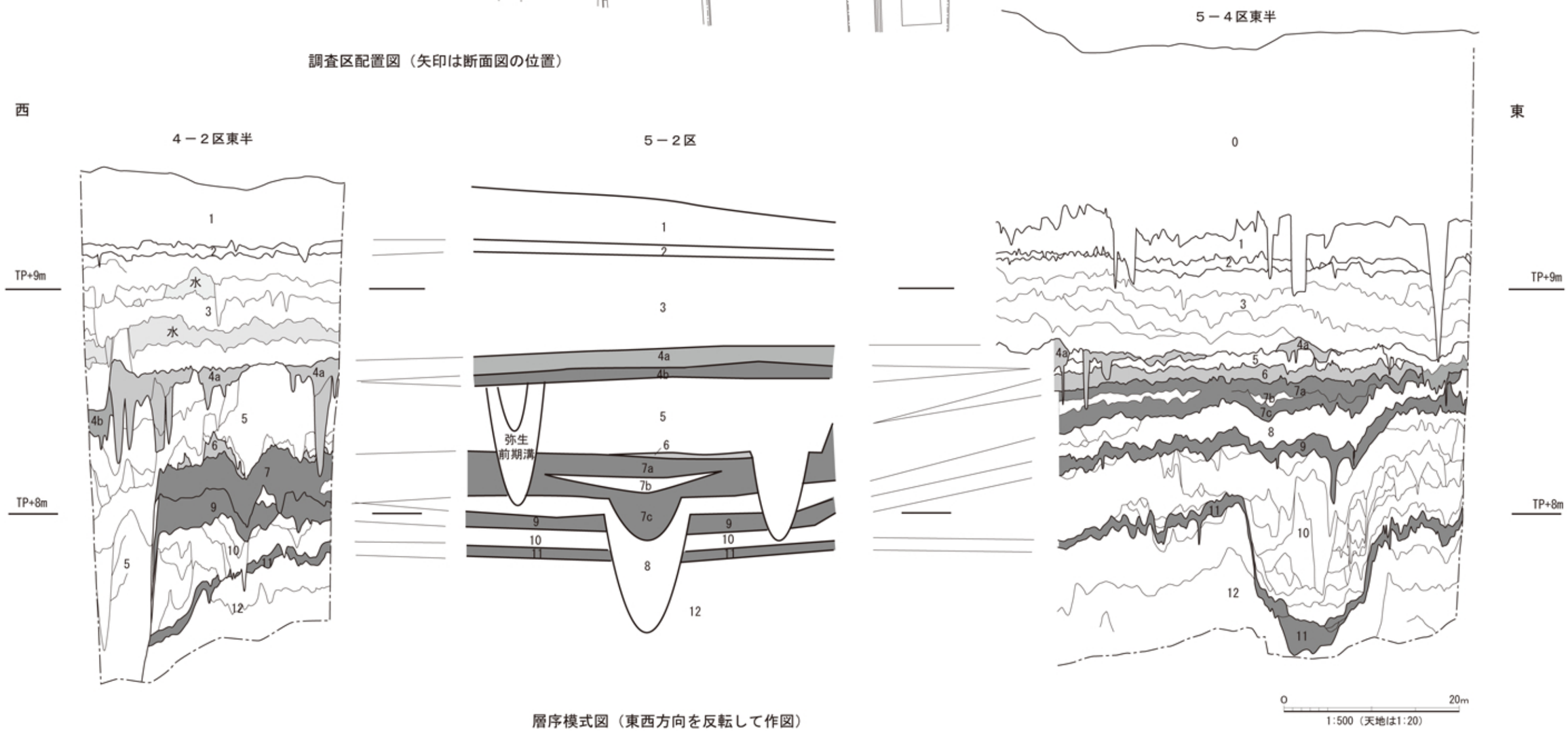


図　調査地と周辺の遺跡



調査区配置図（矢印は断面図の位置）

０層：現代盛土
１層：現代耕土
２層：作土層（近世）
３層：作土層（中世～近世）
　　４区以西では水成層を顕著に介在
　　上面にて畦畔、各区下面にて耕作耕作痕跡
４a層：作土層（平安）
　　各区下面にて溝・耕作痕跡
４b層：平安時代の包含層（２枚に分けうる？）
　　５区に遺存する。
　　上面あるいは層内にて５区を主体に平安時代の遺構群。
　　下面にて耕作痕跡
５層：水成層（弥生時代前期）
　　上面（本来は上位層があったはず）にて
　　弥生前期～平安時代の遺構。
６層：作土層（弥生時代前期）
　　５区で上面で小区画水田。
７層：暗色帯
　　部分的に３枚に区分できる。
８層：水成層
９層：暗色帯
　　風倒木痕
10層：水成層
11層：暗色帯（5－４区で縄文土器・サヌカイト剥片出土）
12層：地山層（低位段丘）



層序模式図（東西方向を反転して作図）

池内遺跡その２の弥生時代調査成果

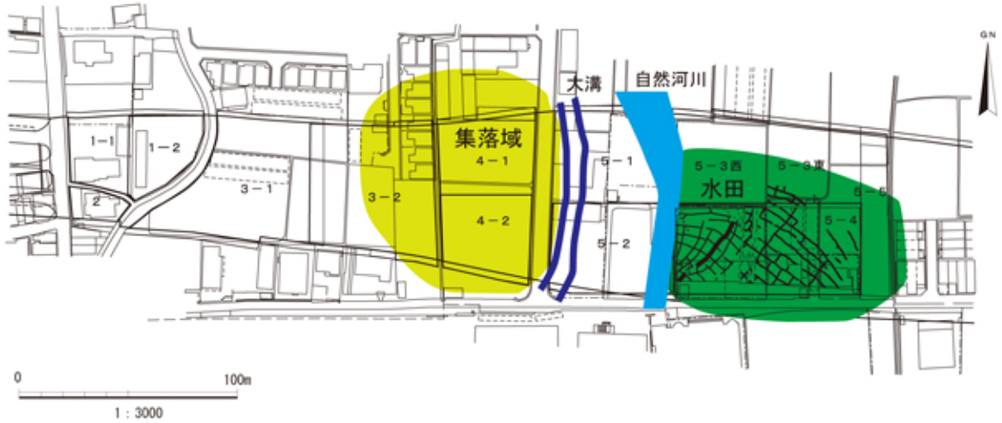
（財）大阪府文化財センター　20061219

池内遺跡その２では弥生時代前期中葉の生活面が２面見つかった。

下層（６層上面）では５区東側で小区画水田が検出された。浅い窪地内に当り、北流する流路が西限と考えられる。

この水田が洪水により埋まったのちの上層（５層上面）では４区を中心として土坑・柱穴など多くの遺構が検出され、集落跡であったと推定できる。５区西端の２条の大溝は、遺構群の東端に当り、弧状を呈することから集落を画する施設（環濠）の可能性が高い。

これら２段階の遺構群はいずれも弥生時代前期中葉という比較的短期間に営まれたものであり、大阪最古の水田・環濠集落の発見という意義のみならず、大阪における弥生初期集落の成立・発展を考える上で貴重な成果と考えられる。



水田〔５－３区東〕（南から）

検出遺構全景〔４－１区〕（南から）

集落を画する大溝〔５－1区〕（南から）

水田〔５－４区中央付近〕（北から）

多くの土器などが捨てられた穴〔４－１区〕（南から）

集落を画する大溝〔５－２区〕（北から）

水田〔５－４区西〕（北から）